

平成28年度
第2回朝日地域振興懇談会

会議録（概要）

期日：平成29年2月23日（木）

場所：朝日中央コミュニティセンター 多目的研修室

平成28年度 第2回 朝日地域振興懇談会会議録 (概要)

- 日 時 :平成29年2月23日(木) 9時30分から11時40分まで
- 会 場 :朝日中央コミュニティセンター 多目的研修室
- 出席委員:敬称略・五十音順
伊藤弘光、井上時夫、工藤悦夫、佐藤照子、佐藤宥男、
帯刀とく子、山口弘美、渡部 巖、渡部 順子
- 欠席委員:敬称略・五十音順
五十嵐英紀、伊藤文一、平形恭順、松本壽太、渡部小枝
- 市側出席職員
【庁舎】朝日庁舎支所長、総務企画課長、市民福祉課長、産業課長、南部建設事務室主査
総務企画課職員
【本所】企画部地域振興課地域振興専門員

一次 第一

1. 開 会
2. あいさつ
3. 協 議
 - (1) 朝日地域振興計画の取り組み状況について
 - (2) その他
4. 報 告
 - (1) 公共交通対策
 - (2) 小さな拠点づくり推進事業
5. その他
6. 閉 会

- ・出欠席の確認
- ・配布資料の確認

1. 開 会 9時30分

2. あいさつ

佐藤会長

皆様おはようございます。時折、春の日差しがさす季節になりました。皆様お忙しい中ご苦勞様です。新聞紙上でご覧になったかと思いますが、先日20日に国の地方創生実行本部の国会議員の方々8名が、西川町とここ朝日地域に視察に参りました。非常に短い時間でありましたが、朝日地域の現状と課題を伝えることができたのではないかと思います。過疎地域を見捨てることなく、何らかの形で支援してくださるものと期待しているところです。また、今日は28年度最後の懇談会です。朝日地域の課題は山積しております。最後まで集中審議の程よろしく願いいたします。

佐藤支所長

皆さま、おはようございます。

本日は、みなさま何かとお忙しいところ、第2回朝日地域振興懇談会にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。また、皆様には日頃より庁舎の行政全般に渡りましてご理解・ご協力を賜っておりますことに改めて感謝申し上げます。庁舎を代表しまして一言ご挨拶申し上げます。

まず、この冬の雪の状況でございですが、1月上旬までは降雪量が少なく推移したものの、中旬にはこの冬最大の寒波が襲い、当地域におきましても大網地域では2mを超える積雪となっております。このため、庁舎といたしましては、1月16日に朝日地域として豪雪災害警戒体制を取りまして、早めの雪下ろし、雪下ろしによる転落事故の防止、道路の巡回パトロールの強化、豪雪対策特別支援事業の周知等に努めてきたところでございます。幸い、雪下ろしや、除雪作業中の事故は無く、安堵しているところでございます。今後は、気温も高くなりまして、雪崩や融雪災害などの発生も危惧されるところでございますので、気を緩めることなく、生活に支障の出ないよう対応を取って参りますので皆様のご協力をよろしくお願い致します。

さて、今日の地域振興懇談会でありますけれども、本年度は今日が2回目となります。1回目は、鶴岡市総合計画実施計画の策定について、皆様方から様々な意見を頂戴することができ、誠にありがとうございました。今回は、平成26年3月に策定されました朝日地域振興計画、26年度から30年度までの5年間の計画でございますが、これまでの取り組み状況について課題を検証するものでございます。さらに、市の行政の基本となります市総合計画におきましても、現在の計画期間が平成30年度までとなっております、次期総合計画の策定についても来年度より検討されることとなっておりますので、皆様方からのご意見を、今後の市総合計画や地域活性化事業の取組みに反映していきたいと考えております。どうぞ、活発なご意見を賜りますようお願い申し上げます。今日はよろしくお願い致します。

3. 協 議

(1) 朝日地域振興計画の取り組み状況について 資料1 資料2

説明： 産業課長
総務企画課長

○会長

はい、ありがとうございました。それでは、ただ今の説明につきまして、皆様からご質問ご意見を頂戴したいと思います。

はじめに産業課より説明がありました「山の恵みを活かした農業の推進」「再生可能エネルギーの活用」「観光資源の活用」について質問やご意見のある方は挙手をお願いします。

○委員

温海地域では農地保全対策をやっているということを知ったのですが、具体的にどのような対策をなさっているのかわかる範囲でお聞かせ願いたい。

○産業課長

農地保全組合という株式会社を立ち上げて、第1の目的は耕作放棄地の解消で、最初に田について取り組み始め、耕作されていない田の所有者から土地を借り受け、別に耕作者を雇い入れるという形で、貸し手には地代を支払い、借り手には賃金を支払うという取り組みをしているということです。コメだけでなく転作作物にも取り組んでいると聞いておりますし、山地の中の栽培地についても事業を広げたということで、山菜については「とるとるサービス」という愛称で、一つの事業として行っていると聞いております。

○委員

私にとって山の恵みは、自分の加工施設で作っている「ぶどう葉もち」であり、奥の山に行くと桑の葉を収穫して、加工、販売もしているのです。6次産業の人材になるのではないかと自分で思っています。それを活かして、旧大網小、旧大網保育園の施設を何かに利用できないか、ちょっとした癒しの場所を開発できないかと考えています。一人ではできないけれども、誰かの声が地域に出れば、それが拠点となっていくのではないかと考えているところです。

○会長

今日の資料を見ますと個人で頑張っている方があまり記載されていませんが、朝日地域には個人で加工施設を持っている方が結構います。そういう人たちの心もくみ取って進めていただきたいと思います。

○委員

イタリア食科学大学から学生が大鳥に来て、アク、とちの実の漬け方等を勉強していきました。アクはあるらしいけれども、とちの実にはあまり無いそうで、ぜひ送って欲しいとの声がありました。私どももいい勉強になりました。正月前に先生とスタッフ4、5人が下見に来て、正月過ぎに2、3人が下見に来て、今回は学生が14名、スタッフを含むと23名でした。公民館と私の自宅の二手に分かれて交代でやりましたが、公民館では私がマタギ文化の話をしました。イ

タリアにもマタギがいるそうです。一昨日の夜に交流会をして、また来たいと言っていました。

○会長

とちは朝日の特産物にしているものだと思うけれども、お客さんがとちを拾ってきて、どうやってつくるのか聞かれることがあるのですが、簡単にできているようです。私も説明もできないし、とても難しいものだと思うので、絶やさずなんとか朝日の特産にできればいいと思います。

○副会長

これから植えて何年ぐらいで実がなるかですが、熊もサルも食べないのでとてもいいと思います。クルミやとちを民間の菓子店へ出している人もいます。とちは食べられるようにするまでの処理が本当に大変です。

○委員

とちの玉から食べられるようにするまでの工程を全て準備して、最後には笹巻を巻く体験までしました。

○委員

遊佐、立谷沢ではとちを加工しないのだそうです。落ちっ放しになっているらしく、いくらでも拾いに行けるので、とち加工施設を建設してもらえないかという声が倉沢集落からあがりました。例えば、ねせたとちだけではなくてペーストにしたり粉にしたり、粉になればシフォンに練りこんだり、次の商品展開ができるだろうということで、そういう加工施設ができないだろうか。年寄りが集まって作業をすることが生きがいつくりにもつなげていこうし、拾うことはいくらでも協力しますということでした。

○会長

朝日のとちの実という、どこの餅屋さんも売れると思っています。グーでイベントに出すときは行沢のとちもちとして売っています。隣では「朝日行沢地域のとちの実を使いました」というとちもちを並べているのでお客さんが混乱しています。菓子店にとって朝日産のとちは貴重だという認識です。

○委員

アクも必要になってくるし、どんどん活かされる人が増えていくのではないかなと思います。

○副会長 朝日保育園と朝日中学校でペレットを使っていますがアクは出るものですか。

○市民福祉課長

ペレットのアクは有害で産廃処理をしなければならないということで、保育園では当初、25年度から畑に撒いていたのですが、有害だということが朝日中でわかり、保育園でも29年度から調査をして処理施設に出さないといけない状態です。残念ながらアク水には使えないそうです。

○副会長 今の段階でわかっている悪影響とは、どういうものがあるのですか。

○市民福祉課長

29年度に調査をするため詳しくはまだわかりませんので、畑には撒かないようにしています。

○委員

アク水を買っているのですが、作っている人に言わせると、流木は使えない、均一なものができにくいということです。混ざりの無い薪で作ったアクでないと使えないということがあるようです。

○会長

焚き付けに新聞紙や紙を使っても影響があるということで、絶対に使わないと聞いています。とちの実はアクの種類によって色が全然違ってできるということでこだわっているようです。

他にご意見はありませんか。

○委員

計画の未達成がたくさんあり、どのようにしたら達成ができるのかなと思いました。朝日の自然、六十里越街道は白神山地よりもずっといいと感じています。観光協会ではよくわからなくて、説明ができないことがあるというような話を聞きました。今は、インターネットで調べてくるので、観光協会職員が率先して現地に行き、質問にも対応できるようにしなければならないと思います。庁舎職員も人事交流が進み、朝日庁舎に来たからには朝日を知って帰ってもらいたいですし、何も知らないのではもったいない感じがします。トレッキングコースももっともっと宣伝した方がいいのではないかと思います。また、中台池の森林浴、森林セラピーといって保健委員で森林体操をしたことがあります。すごく気持ち良く、まだまだ整備はされていませんが、もっと活用できるのではないかと思います。ブナの実も多く落ちて、苗が生えていますが、鶴岡市内の人は何の実なのか全然知りません。苗を活用するか何かできるのではないかと思います。大変だとは思いますが、検討した方がいいのではないかと思います。

○会長

この計画は26年度から30年度までの計画ですので、今のご意見について事務局はどうでしょうか。

○産業課長

六十里越街道につきましては、アルゴディア研究会の皆さんが地道に整備を始めてから、いろいろ行政の方でも助成をさせてもらい、一緒になって整備をしておりますし、また宣伝活動も行っておりますけれども、まだまだ足りない状況であると考えております。いろいろなメディアに取り上げられるといったことが一番の早道なのかなと思いますけれども、そうした機会も少ないですし、行政や観光協会のイベントのほかにも、米の粉の滝ドライブインなどでも独自にイベントを企画しておりますし、29年度は、トレッキングと食を組み合わせたかたちでの展開も企画し、仙台方面などからも来てもらえるように取り組みたいと思っているところです。観光協会につきましては、26年度まで長く勤めていただいた方が退職され、体制がゴタゴタしておりましたが、月山あさひ

振興公社に委託をしまして、28年度からは専任のスタッフを1名おき、ブログ等も充実するようなかたちで取り組んでおります。庁舎の職員につきましても、積極的に参加するように促しております。地域のほとんどの開山祭には参加をしておりますし、六十里越街道も3日間フルトレッキングに参加をしたり等、意欲的に取り組んでもらっております。今の観光担当は、自分で歩いたところとかたちで案内ができるような体制にはなっておりますが、さらに力を入れていきたいと思っております。中台池も単体でプログラムを組むようにはなっておりませんが、「知る人ぞ知る」ところから、皆さんから知っていただくようなかたちで観光スポットになればと思っております。1日滞在できるような企画などができればと思いますので、いただいたご意見を参考にさせていただき、いろいろなものと組み合わせて考えていきたいと思っております。

○総務企画課長

1つ紹介ですが、昨年の12月の市広報の表紙になっておりますが、月山ダムの主催事業で「水源の森づくり事業」がございます。子どもたちを中心に、自分たちでブナの実を採って植えているのですが、今年はブナの実もドングリも不作でして、職員の方が拾ってきたものを植えたところです。子どもだけでなく大人も参加でき、植えてから、木が大きくなるまで何年かかるという一種の教育事業という面もございます。このような事業も朝日地域では展開しているということで紹介させていただきます。来年度も実施すると思っておりますのでぜひご参加をお願いしたいと思います。

○委員

もう1点お聞きします。そばまつりですが、去年は湯殿山スキー場で開催しましたが、ちょうどその時期に中台池もきれいで、まつりのついでにちょっと行ってみることもできましたが、今年会場が大梵字で、あつという間に終わってしまい、その経緯をお聞きしたいです。以前はすまいるを会場に盛大に開催していましたが、どうなったのでしょうか

○産業課長

そばまつりは、一昨年まではすまいるで開催しておりましたが、スタッフがこの会場を提供するには、県庁の指導も厳しくなって容易でないということもあり、去年は湯殿山スキー場の夏場利用というねらいもあり、スキー場でやってみようということで実施しました。地域外の方からは少し遠いという意見があり、スキーヤーが昼食をとる施設のため高齢の方にとっては駐車場から距離も遠く、2階へ上がるのも大変だったというようなマイナス面のご意見が多かったため、月山新酒フェスティバルも、湯殿山スキー場から博物村に会場を変更した経緯がございます。こちらは悪天候時の対応など、難しいこともありました。確かに夏場のスキー場で実施するイベントに関しては、良かったという方もいらっしゃるのですが、どうしても少数意見となり、今年は大梵字でやってみようということで実施したところです。そばを味わっていただくということでは、美味しいそばを食べることが一番ですので、毎年、グーの支配人に揚げていただいている天ぷらが大変好評で、大梵字での開催については来客の反応も良かったと考えております。引き続きこのようなかたちでやっていきたいと考えております。

○委員

東部コミセンや旧大網小に立ち寄って、いろいろな体験をしてもらうというようなやり方もある

と思います。イタヤカエデのサップ（樹液）の体験もいいのではないかと思いますので、東部コミセンの事業で活動していただければ広まるのではないかなと思います。

○委員

自分の役職の立場でお話をさせていただいておりますが、いろいろな施策があつて少しずつ前向きに取り組んでいるということで、今後ますます楽しみにしたいというのが1つと、実際計画に立ち向かった時に現実的に難しいというところがあり、なかなか進んでいないという話しも見受けられますけれども、30年度までというところもありますし、その先も継続していく訳ですので、いろいろな課題を出していただけて取り組んでいただければというのも1つです。この資料をいただいた時に、今の朝日の現状を知ることができ、自分に何かできることはないか考えておりました。答えは出ていませんが、私もまだ若手の方に入ると思っておりますので、何かご協力できることがありましたら、ぜひ協力したいなと改めて思ったところです。皆さんのお話にありましたが中台池や六十里越街道、山ぶどうや加工品など、朝日には知られていない素晴らしい部分があると思いますので、皆さんの意見を参考にさせていただいて、集約してこれからの計画に盛り込んでいただき、次年度以降進んでいただければと思っております。

○委員

小さい取り組みにコツコツ取り組んでいる人が朝日の中にはたくさんいるということをとらえて欲しいと思います。過疎地という条件不利地域という部分については、今までの流れや自分たちではどうしてもできない不利条件等があるわけですから、その辺を、今までの行政の流れとそこに新しい合併に伴ったところの均衡ある地域の発展という立場から見ていかなければならないと思います。振興計画の最後の方にありますけれども、朝日の場合、人口は平成17年から減っておりますが、世帯数は増えているという実態からすると、2.7~2.8人位の家族構成になっていると思われまます。山村の場合3.4人なのですが、その構成の中身はかなりの高齢化が進んでいる世帯だと言ってもいいと思います。そういうところからすると同じ施策でいいのかどうかということです。この施策の中間反省ということでありますが、29年度予算が先日公表されました。かつてない大規模予算ということで、新しい事業もあるようでございます。そういう中で市全体では、業務の委託あるいは指定管理ということでどんどん進んでいます。コスト削減なのかどうかわかりませんが、かつての行政、第三セクターが、平成5年から後、どんどん建物が出来て、第三セクターに運営させて失敗した事例があります。まったくそこにまかせてしまって、行政関与というものが薄れた時代になった訳ですが、まさに今、そういう時期に来ているのではないかと思います。住民の税金を使っている訳ですから、委託するという目的がどう達成されているのか、その検証はしっかりとしなければなりませんし、次の段階でマネジメントサイクルをやっていくことが必要だろうと思います。市長も言っているように、この地域に安心して安全に住み続けることができるかどうかという施策が展開されていくものだと思いますし、そのために我々住民も自分の持っている力をそれぞれの立場で発揮しなければならぬだろうと思います。UIターン対策はもちろん必要ですが、まず、ここにいる人のための、十分なもっと手厚い施策が必要なのではないか、出ていく人の方が多い、そこを食い止める方策が必要でないかということです。ここに住めず、何十年も住んできた人も出ていくということは何が原因なのだろうかとどこにメスを入れていかないと、一気にできる訳でもありませんし、非常に難しい課題なのですが、そういうことがあると思います。小規模

産業振興、小規模林道対策、治水対策といった従来のものがどうなっているのかというところが見えなかったのですが、福祉行政、子育て行政、高齢者対策、健康づくりといろいろありますので、そういうことも考えて欲しいと思います。先般、娘が里帰り出産をするということで、姑も働いているし、安心して出産できるよう3歳くらいの上の子を保育園に預けたいと相談したところ、断られたといったような話が2件程ありました。一時預かりも拡充し帰省しやすい環境を整えることで、そういう人が戻ってきてくれるかもしれませんので、そういう部分もお願いしたいものだなと思っております。

先般、自治会要望を見たところ、要望の大半は南部建設事務室に関するものでしたが、従来、用水路などは受益者負担でやってきました。しかし、高齢化で人口も減少し、農業従事者も少なくなって管理が出来なくなってきており、そのままにしておけば災害につながります。自助、互助ともに大事ですが限界があります。そここのところをこれからどういうふうにしていかなければならないのか、課題も整理しながら実験的なことも手掛けることは可能かもしれませんが、そんなことを感じました。朝日中学校の教員配置ですが専門の先生がいない教科が2教科あります。仮免の先生が一生懸命やっているようですが、なかなか才能を伸ばすことが出来ず、展覧会に出品するような指導はできないというような話でありました。義務教育でありますので、他校と兼務でもいいので配置できないのか、行政の配慮の中で加配が出来ないのか、子どもが少ない中で、ぜひそういう対策も対応できないものなのかと思います。こういう地域の中で、自分たちでできることはやろうとしているのだけれども限界があります。大きく行政関与をしながら、地域をどうするかということに住民と一緒に考えて共通課題を整理して向かう姿勢を作っていかないとこの地域は本当に大変です。住民の力を引き出しながら大きな視点でぜひ指導していただきたいと思います。

○会長

続きまして、総務企画課より説明がありました「自然体験学習活動の推進」「移住・定住の促進」について質問やご意見のある方お願いします。

○委員

大鳥自然の家のことが15頁～16頁に載っています。28年4月から新しい体制で運営しております、私もその中の企画運営委員になっております。今の所長は今年度からなので仕方ないところですが、スタッフ、職員のスキルアップが必要だと感じています。自然体験活動に必要ないろいろな資格があるので、講座等を受講して勉強して欲しいと思います。指定管理団体の中で指導するとか、講師を頼んで指導を受けるようにと言われるかもしれませんが、行政のフォローアップをお願いしたいと思います。私も山形に研修に行ってきましたが、せっかくの機会に質問をすることも無く帰ってくるようではもったいないと思います。行政の担当職員もいるので、その担当者から職員に伝えてもらうような形がいいのではないかと思います。4月の会議で企画運営委員会を設けて、今年の冬は12月～2月まで事業を3回組み、12月は中止になりましたが2回実施しました。今まで何年も冬は自然の家に誰も来ることもなく、地域の人たちの意見もいろいろもあるので、まず今年は新しい体制になったので月1回位は事業をやろうということで3回企画をしました。職員のスキルアップをしてもらい、どんどんお客さんに来てもらうかたちにもっていかなければならない訳なので、当然お金もかかりますから、その辺、行政側から何とかならないものだろうかと思いますので、わかる範囲でお願いしたいと思います。

○会長

こういう活動をしている人たちのセミナーや養成講座の情報は役場に届くものなのか、施設に直接来るものなのか、いかがでしょうか。

○総務企画課長

指導するにはそれなりの資格、自信を持ってやってもらうことが必要です。研修等の案内はあまり見たことがないのですが、キャンプ指導者やネイチャーなどできるだけ多く取っていただいて、他の指導員にも伝えていけるように、今ここで自然の家の予算はわかりませんが、担当者と所長にも、職員の研修をすすめていただくよう伝えたいと思います。

○委員

大勢の子どもたちを預かる訳なのでそれなりの資格を持って欲しいと思います。今のところ何事もなくきているのでいいのですが、例えば、山でトレッキングコース歩かせるにしても漆、ハチ、ヘビそれらの環境を見て回って歩き、それから子どもたちを歩かせるようにします。ただ来た人たちを連れて歩くだけでは後が続かなくなるので、何とかしていかなければならないと思っています。

○会長

庄内の産直組合では、万引きに対する勉強会などに従業員を出席させたりして、組合がいろいろな研修を企画しています。他に「自然体験学習活動の推進」「移住・定住の促進」について無いようでしたらその他に移ります。

○委員

福祉行政の面から雪下ろし事業に補助をいただく一方で、朝日にとって雪というのは資源の1つという捉え方もしなければならないと思うのです。南部コミセンで長寿社会づくりソフト事業ということで72万2千円の補助をいただきかんじきそりづくり、そりすべり事業を行った時に、かんじきそりづくりにはかがやきクラブの方たちからも来ていただいて50人余の参加をいただきました。そりすべりには100人以上の集客で大変盛り上がりました。補助金が単年度事業であって次年度どうするかと考えた時に雪は来年もいくらかでも降る訳です。事業がどんなに盛況であっても事業をはれないというジレンマの状態にいるので、何らかの補助というのは考えてはもらえないでしょうかというお願いでございます。

○総務企画課長

直接庁舎の予算ではありませんが、今も地域づくり交付金がございますが、コミュニティ推進課のステップアップ事業もございます。

○委員

最近の山新を開くと必ず毎日のようにどこかの地域の雪遊び事業が載っていますが、朝日はそれに飛びついていけないという、多分私たちの地域でそれをやると言った時に72万2千円の予算がついたのだと思うので、雪遊び事業というのは今後も朝日地域としてはついていかなければならない事業の1つではないかなと思います。

○総務企画課長

今回の長寿社会づくりソフト事業の補助金は本当につきません。採択が難しい事業だったので取組み、事業展開が認められて今回補助となりましたが、続けてということはありません。今申し上げたとおり、ステップアップ事業は広域コミュニティでは上限が20万円なのですけれども、そういった事業を探しながらいければと思います。1回目の申請が4月1日～19日までのため、朝日は自治会長会議もその時期なのでもう少し先送りできないかという希望もしております。2回目7月頃の募集になりますが、そういったものも目指しながら後程相談させていただければと思います。

○委員

大鳥自然の家はあそこに存続していなければ意味が無く、相当な経費はかかる訳です。しかし大鳥から自然の家を無くしたら本当にさびれてしまい、地域振興の大きなマイナスになってしまい、地域の存亡にかかわるだろうと思います。地域だけでなくそういった面での支援をお願いしたいと思います。合わせて従来ものが廃止や変更という場合についても住民の方に声をかけて、住民と一緒に存続あるいは維持のためにどんな方法があるかということを考えるようなかたちを、鶴岡市全体について言いたいのですが、ある日突然ではなく、大きな政策変更の場合についても住民とともに考え、あるべき姿と一緒に求める機会をぜひ作って欲しいと思います。これは私たちの地域の課題であると同時に、市全体の課題でもあると思いますが、農業の後継者が不足し、生産量も減ってきており、耕作放棄地、地域の用水路の維持補修そういうものについても非常に困っています。この地域はますます高齢化が進み、また人がどんどん出ていき本当にここに住みたくとも住めないという人が出てくるのではないかなと思います。地域の財産も混在しているものですから災害などが起きて災害復旧しようと思う時に、この地域に住んでいない田などを放棄した人は整備する必要がない訳です。その人の了解と負担を求めなければならないのですが、家は直さなくていいと言われるという実態です。そういうことも考えて、総合的に地域の皆と一緒に考えていかなければならない時期にきたのかなということを感じています。地域を守るということを考えて時に、できたこともできなくなるようなこともたくさん起きてきます。行政の情報も指導も十分に支援をいただきながら、主体的にやらなければならないと最近とみに感じますのでよろしくお願ひします。

○会長

以前、どこかの過疎地でだんだん絶えていく村の行事を何とかしなければならぬということで、従来あったお祭りをそこから出て行った人たちが戻って祭りを盛り上げるというのを聴いて感動したことがあります。もう出て行けばいいのではなくて、自分が昔住んだところを守っていくためにはそういう声掛けも必要なのではないかと思いました。

他にございませんか。なければその他に移りたいと思います。皆さんからは何かございませんか。事務局はいかがでしょう。では無いようですので以上で終わりたいと思います。

4. 報告

(1) 公共交通対策

資料3

説明：総務企画課 小野寺

(2) 小さな拠点づくり推進事業

資料4

説明：総務企画課 吉野

○委員

バス時刻表の上り下りの標記にですが、大鳥に上る、鶴岡に下るといった感覚なのですが。

○総務企画課長

庄内交通も同様で、鶴岡駅を基準に行くのが上り、分散するのが下りということのようです。

○委員 料金の逆転現象がおきるという点についてもう一度説明していただきたい。

○総務企画課専門員

具体的に言いますと、今庄内交通の初乗り運賃が190円か160円になっていたかと思います。市営バスで大鳥や田麦俣から来て庄内交通に乗り継ぎ、例えば熊出で降りたとしますと160円になるのですが、市営バスで言えば2kmの区間内なので100円で乗れることとなります。90円、60円が初乗り分だけ高くなるということが起こります。距離が長くなれば解消するのですが、現在の庄内交通の料金よりは安く乗れますし、朝夕の便については庄内交通の料金がそのままありますので変更はございませんが、このような内容になっております。

○委員

大網の地域デザインが完成しましたら、いただきたいと思ひますし、ぜひ取り組みを成功させて朝日地域全体に波及するようにしていただきたいと思ひます。大いに期待をしております。

○副会長

自分からするとできないのではないかと思ひますし、違う視点から見ればできるのかもしれないし、やってみようと思ひています。軽トラ市ですが、元旦に注連寺にあれだけの人が来ることも知らなかったし、山ぶどうジャムはあっという間に売れてしまい、振舞い用のモチも提供して注連寺の方も良かったということでした。

○委員

私自身、正月に注連寺に行ったことが無く、どこでやるのか事前に下見に行き、中でやることにしたということを知り、実際に場所を見せてもらいました。少し暗くないかなという印象でしたが、こういった客層の方がお詣りに来るのかもわからず、やってみないとわからないという気持ちで挑戦しました。家族にお土産として持って行くのではないだろうかというアドバイスをいただき、バック詰めにして70個ぐらい持っていきました。ばら売りよりも4個や6個入りのバック詰めの方が売れてこれはいけるなと思ひました。天気がよければ夏は軽トラ市をやってもいいのではないかと思ひます。加工所を持っている人が2人しかいないので、どこかで作って売ることが出来る人がいればもっと参加してもらっていいと思ひます。ケーブルテレビで志げさんの草履づくりを紹介していましたが、90歳を過ぎていますが「おえぞおり」を作って健康的に過ごしているおばあちゃんということで情報発信をして、いろいろ出してもらえたらと思ひています。

○総務企画課長

他に何かございませんでしょうか。

ありがとうございました。今後とも皆様のご理解とご協力をお願いしたいと思いますし、地域デザインについては完成しましたら皆さまにも配布させていただきたいと思います。市営バスのお試し運行につきましても3月下旬にありますので、ぜひ乗車いただきたいと思いますのでよろしくお願い致します。それでは5. その他に移りますけれども何か皆様方からございましたら。

5. その他

○委員 ぼんぼの件で経過をお聞きしたいのですが。

○市民福祉課長

11月にご説明したとおり市として運営はいたしません。3月議会に施設の条例を廃止する提案をします。29年度予算として、どこか引き受け手があれば電気料と水道料だけは市で負担する予定であり、運営の道は残しております。かたくり温泉ぼんぼの存続を求める会のメンバーが署名活動などいろいろされており、署名活動を受けて電気料と水道料の予算要求をしたのですが、その後の運営をされるかどうかは会の方で決めていただくものになります。

○委員

昨日山新に掲載がありました。表題としてはこちらの意図とは違っておまして、まだこれからやるかやらないか、これまで検討してきた方が集まって財務試算をしながら体制をどうするかも含め、自分たちで存続が可能かどうかという会議を28日に開催する予定になっております。そこで最終的に何人かでやろう、なんとか守っていこうということになれば、具体的に組織体制、役員の構成に入ることになるだろうと思いますが、その決定を受けてということになります。140名弱が集まりましたが、ぜひ残して欲しいという希望が非常に強いです。ただ残して欲しいというのではなく、みんなで利用してみんなで支えていくという気持ちがないと残すことが出来ないということをおし上げてきました。周辺地域にも理解を求めながら、健康づくりと癒しの場、交流の場、福祉の里本来の当初の目的が、自分たちの力でさらに推進できればいいのではないかなと思っております。28日の会議の結果を得てどのように発展するかは未定でございます。皆様のご意見をお聞かせ願いたいと思います。市民福祉課長から地域でやればということでしたが、投げかけではなく一緒に地域の健康づくりに取り組んでいくような方向性のご指導をお願いしたいと思っております。

○事務局から連絡

- ・地域振興懇談会委員の任期について

6. 閉会

○井上副会長

大変ご苦勞様でした。この3月で任期が終了するということで本当にありがとうございました。